

子どもたちと向き合う時間を増やしたい。

「一番大切なのは『子どもたちと向き合う時間』。一人一人に目を配り、心を通い合わせたいと、先生も工夫しています。」

学校の役割も多様化し、教育の現場では先生の多忙化が懸念されています。子どもたちと向き合う時間を長くするためにさまざまな活動に取り組んでいる、福井県教職員組合の渡辺大輔執行委員長にお話を伺いました。

—今の先生は忙しいと言われるが、なぜなのでしょう？
ひとつに、報告業務などの事務処理などが、格段に増えたことがあります。県や市町の教育委員会への報告事項や、アンケート調査などを依頼されるが増え、報告書をつくる時間にとらわれています。複数の機関から似たような調査がくることもあります。

—授業への影響もありますか？

授業への影響を極力避けるよう、多くの先生は勤務時間外や休日作業をこなしています。でも本来はこの時間も、子どもとのふれあいや教材研究に使いたいです。また、授業に直接影響するのは研修などの出張です。平日に行わ



渡辺執行委員長

—研修は多いのですか？

教科別研修のほか、各学校1人が義務付けられる研修などもあります。教育の質を高めるために研修は必要ですが、特に規模の小さな学校では、研修を受ける先生だけでなく、研修のため学校を離れる先生の業務をバックアップする先生の人数も限られており、負

れるので、研修などの出張と重なる授業は、他の先生に指導してもらおうか自習になります。

担は大きくなります。研修が嶺北で開かれる場合、嶺南の先生にとっては移動時間も含めてまるまる1日学級を空けるをえませぬ。

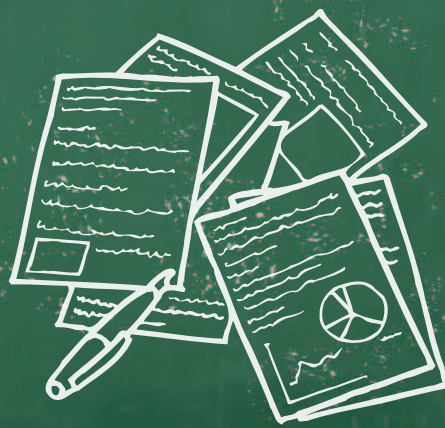
—その他に多忙化の原因はありますか？

平成21年に導入された教員免許更新制では、10年ごとに30時間の講習を義務付けています。夏冬の長期休暇時に集中していますが、実は質問会や部活などで夏冬の休みもほとんど子どもたちの指導にあたって実態です。講習を実施している大学は嶺北に多く、嶺南の先生の負担はさらに大きくなります。

—先生が子どもと向き合う時間を確保するための、県教組の取り組みを教えてください。

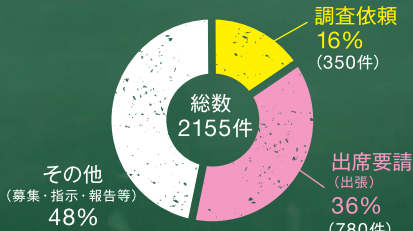
まずは、教職員の数を増やすことです。その他、報告文書の事務作業については、ま

ず調査の重なりがないよう、県や市町に連携していただくことが必要だと思います。研修については、例えば各校参加の場合、小規模校をグループ化して交代で代表者が出席し、グループ内で情報を伝え合う枠組みをつくるなどが考えられます。研修内容も、教師の資質や専門性を高められるよう充実を図ることも大切です。県教組は先生方の負担を減らし、子どもたちの教育という本来の業務に力を注げるよう、今年度、県や関連各団体に改善策を働きかけていくことを、目標の1つに掲げています。



受付文書数と内容

(昨年度、ある小学校の例)



制度化されている研修

- ◎ **初任者研修** …… 校外研修 **25日間**
(うち、社会体験2日間、5月に1泊2日、夏季休業中に2泊3日の宿泊研修)
 - ◎ **10年経験者研修** … 校外研修 **12日間**
(うち、夏季休業中の社会体験3日間)
 - ◎ **教員免許更新講習** … 校外研修 **5日間**
(30時間)
- ※いずれも計画書、レポート、研修報告書等の提出は義務



子どもたちの未来を、もっとよくするために。福井県教職員組合は活動しています。

福井県教職員組合 〒910-8544 福井市大手2-22-28 福井県教育センター内 電話 0776-23-1887 ファクス 0776-23-2919 <http://www.ftu.or.jp/>